

## 大鹿村中央構造線博物館たより 72号



月・火曜日休館

TEL&amp;FAX: (0265) 39-2205 E-mail: mtl-muse@osk.janis.or.jp

毎年5月の連休は、1年間で最も来館者の多い時期の1つです。今年の4月29日～5月6日までの来館者数は合計362名でした。中でも大鹿歌舞伎の定期公演が開催された5月3日が最も多く、この日だけで120名の来館者数を記録しました。

来館者があまりに多いと対応しきれないこともあります。できる限り来ていただいた方には展示解説を行い、新しい知識など、何かを得て帰っていただければと思っています。そのために、展示や解説の方法を工夫していきたいと考えています。今後ともよろしくお願ひします。(榊原)

## 「大鹿村ジオツアー」のお知らせ

8月開催のジオツアーについて、前号のお知らせから変更がありましたので、ご案内致します。

・ 期日：8月22日(土)～23日(日) 1泊2日 (宿泊：赤石荘)

※大鹿村内在住の方は、ご自宅から通って参加することも可能です。

・ 参加費：1人¥1000 (博物館入館料と保険料含む、宿泊費と2日目の昼食代は別)

・ 定員：20名 (定員に達し次第、申し込みを締め切ります)

・ 集合：8月22日(土) 15:20 大河原バス停

(松川インター14:09発の路線バスが、15:15に大河原に着きます)

・ 申込先：大鹿村中央構造線博物館 電話 0265-39-2205 締切：8月2日(日)まで

・ 日程《前号より変更がありました。今後も、内容や時間等が変更になる場合がございます。》

## 1日目 8月22日(土)

時間	場所・内容
15:20	大河原バス停 集合
15:40	安康露頭
17:00	中央構造線博物館
18:10	宿泊先(赤石荘) 到着

## 2日目 8月23日(日)

時間	場所・内容
8:00	宿泊先(赤石荘) 出発
9:00	夕立神展望台
10:50	福德寺
11:40	大西公園 昼食
12:50	塩の里・黒部銚次郎の坑道跡
13:50	中央構造線博物館
15:00	博物館にて解散

※解散後、希望者はマイクロバスで松川インターまで送ります。

新宿行 16:36 発、名古屋行 16:55 発の高速バスに乗ることができます。

## 神城（かみしろ）断層地震から学ぶ その5

前回は、内陸の浅い地震でも、その地震波を起こす震源断層は富士山の5倍ぐらいの深さから地表付近まで立ち上がっていること、およそマグニチュード6.8以上の規模になると、震源断層の一部が地表まで達して、地面に食い違いが生じるということでした。

### —活断層—

地表に見える断層には、いろいろな時代のずれ目が見えます。最近の時代の地形や地層を食い違わせている断層を「活断層」と言います。今の地殻変動が始まった時代以降にずれ動いた断層なら、くりかえし動くと考えられるからです。「最近」と見なす期間は、200万年、数10万年、12万5000年など、目的により異なっています。

### —神城断層—

小谷村～大町市の木崎湖に続く活断層。2000万年前～1500万年前に東側がずり落ちる「正断層」として誕生した糸魚川～静岡構造線が、約250万年前から始まった東西に押し縮められる地殻変動で、逆の向きに再活動しています。

東側が西側に押し被さる「逆断層」で、上下方向には1000年あたり約3mの速さで東側が上昇しています。水平方向のずれを合わせると、じっさいの断層のずれはもっと大きいはずです。

ただし、北アルプスから流れ下った砂礫や粘土に覆われていて、岩盤を切っている断層の本体は見えていません。発掘調査では、固まっていない砂礫や粘土の層が切られたり曲げられたりした姿で観察されます。

### —2014年11月22日の地震の地表地震断層—

2014年の地震では、白馬村北城～神城にかけて、堆積層の食い違いが地表に出現しました。これらは地面が揺さぶられたために生じた地滑りなどではなく、地下の震源断層から続いている地表地震断層と判定されました。その位置は活断層の位置とほぼ一致しています。そこで長野県は、この地震は神城断層の再活動と判断し、「2014年長野県神城断層地震」と命名しました。

私たち（松島・河本・榊原）は、2014年11月29日と12月12日に現地へ行き、神城地区の一部の水田の水が南西側にだけ溜まっていることから、水田全体に北東側が傾き上がる変動が生じたことを見つけました。そのような変動は多くの場所で見つけられ、調査が続けられています。私たちが見た場所でも、JAXAの人工衛星“だいち2号”からのレーダー画像を国土地理院の研究者が解析し、約50mの幅に0.5%（100mにつき50cm高くなる）程度の傾きが生じたことが報告されています（地理学会、2015年3月）。これからいろいろな調査結果が報告されるはずですよ。

### —神城断層地震の不思議—

この地震の規模はマグニチュード6.7で、ふつうは長い地表地震断層が出現する規模ではありません。それなのに、全長20kmの震源断層のうち10km以上の長さで地表地震断層が出現しました。一方、震源断層の下辺が10kmでふつうより浅いのです。また、活断層の東側に被害が集中し、西側との差が極端に大きいのです。その理由も、引き続き考えていきたいと思います。（河本）